

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月16日

【評価実施概要】

事業所番号	170502397		
法人名	有限会社 レストケア		
事業所名	グループホーム ぴーぷるマルシェ		
所在地	札幌市南区川沿16条2丁目4番17号 電話 011-573-8222		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成19年12月16日

【情報提供票より】（平成19年11月28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和（平成）15年 11月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13人, 非常勤5人, 常勤換算5.8人

（2）建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	2～3階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	37,000円～40,000円		
その他の経費（月額）	・水道光熱費 20,000円 ・暖房費 8,000円（11月～3月）		
敷金	有（円）（無）		
保証金の有無（入居一時金含む）	有（円）	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1,250 円		

（4）利用者の概要（10月1日現在）

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	10名	要介護4	8名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	99歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ときわ病院、もなみクリニック、土田病院、日の出歯科 真駒内診療所
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、看護師である管理者が長年の経験を活かし情熱を持って立ち上げた経緯がある。機能低下防止の色々なプログラムを提供し、利用者の選択で、好きな過ごし方を職員のチームワークで支援している。居間や居室には手作業の作品も飾られ、利用者の表情は明るく、生活の活性化が図られていることが伺えた。100歳の誕生を迎えた利用者も、にこにこして穏やかに憩っていた。ホームヘルパー養成の実習生も多く受け入れており、ボランティアとの関わりも多い。管理者を中心に、職員は地域密着型サービスの理念実現に向けて意欲的に取り組んでいる様子が伺える。地域の社会資源として、中心的役割を持って頂けるよう期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価を受けて、トイレの表示は利用者に分かりやすく表示された。短期介護計画は、3ヶ月と6ヶ月とし、入浴回数は職員の日勤帯の中で週2～3回を基本に利用者の選択で支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は、全職員で行い各ユニットのホーム長がまとめている。毎月ケースカンファレンスも行い、良質のケアサービスに向けて自己評価を生かすと共に、熱意をもって取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	定期的に、運営推進会議を開いている。ホームの活動状況を報告し、出席者からの意見もホーム運営に活かしている。地域密着型サービスとしてのホームの理解とサービスの向上に繋げている。利用者の家族と共に運営推進会議の中で食事会も行っている。市、区の主催する研修会や管理者会議に出席し、年1回の交流会にも参加している。区からの問い合わせや相談にも応じている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	毎月1回ホーム便りを発行し、利用者の写真を沢山載せて家族に送付している。職員は、家族来訪時には積極的に声をかけをし、家族からの意見や苦情、不安が気軽に話せる雰囲気を作っている。ホームには苦情申し立てボックスを設置し、重要事項説明書には外部の苦情窓口も明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	「マルシェ通心」を年1回、地域に向けて発行している。町内会の行事のお誘いには利用者の状況に合わせ、積極的に参加しホームからも近隣に行事の呼びかけを行い、地域密着型サービスの実践に、意欲を持って取り組んでている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしての理念を簡潔にまとめ、誰にでも目に付くように玄関内に額に入れて掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と共に理念を共有し、毎朝の申し送り時に復唱して、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々とは、散歩の時、ゴミだしのときなど必ず挨拶をしている。ホームの行事のポスターを作って、ご近所に参加の呼びかけをしたり、町内会からの行事のお誘いには入居者の状況に応じて参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニット毎に職員全員で行いホーム長がまとめている。外部評価で指摘された点も職員のミーティングで話し合い、ケアサービスの質向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行う運営推進会議ではホームの状況を報告し、会議の話し合いや意見をケアサービスの向上に生かしている。運営推進会議の記録もまとめている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市、区の主催する研修会や管理者会議に出席し、年1回の交流会にも参加している。区からの問い合わせや相談にも応じている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回ホーム便りを写真入で発行し、家族に送っている。お小遣いの内訳も定期的に報告している。来訪した際には、領収書と共に開示し、サインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来訪時には、積極的に声をかけをし、意見や苦情を気軽に話せるような雰囲気を作るよう心掛けている。ホームには苦情申し立てボックスを設置し、重要事項説明書には国保連、市、区の苦情相談窓口も記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者、職員の馴染み関係が大切であることをよく理解して、異動を最小限に押さえるよう努力している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の定期的な研修会への参加の機会を設けており、外部の研修会や勉強会にも参加している。受講後は会議で報告し、他の職員にも周知し参加記録をまとめている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に出席し地域の同業者との交流もしている。職員の勉強会や相互訪問活動を通してサービスの質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用の前に、利用者、家族にホームの見学や面談をして頂き、サービスの立案をして本人が安心して生活ができるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に寄り添いその人に合わせたペースで自尊心を傷つけない対応を心がけている。また、利用者の趣味や得意なことを教えてもらうなど、支えあう関係も大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の生活歴や家族からの情報を基に一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い利用者、家族の意向を取り入れながら職員間で話し合い、サービス担当者会議を開いて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状況に変化が見られた時は、その都度見直しを行い家族とも話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日ホーム内でリハビリを行っている。食事前には嚥下運動をしたり発声練習、数字遊びなど一人ひとりの状況に合わせて行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療のほか、かかりつけ医へは受診前にファックスで情報を提供し、適切な医療が受けられるように支援している・		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルを作成し、重度化した場合の終末期ケアについてホームの対応を職員と共有し、家族の意向も確認しながら対応を検討して行く。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にされた配慮をしている。個人情報の取り扱いについても家族と文書で取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、どのように過ごしたいかを把握して、日々の生活を工夫しながら取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量や希望に応じて食事の下ごしらえや下膳など職員と共に行っている。献立や味付けも利用者の好みを聞いており、盛り付けの器も家庭的なものを使用して見た目も配慮し、楽しい食事を工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2. 3回、日勤帯のなかで利用者の希望の時間に入浴を支援している。入浴を好まない利用者には、足湯、シャワー、清拭等で対応しながら入浴に繋げるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手作業、ゲーム、編み物など利用者の好みを生かした楽しみごとを支援している。昔話、音読、数字合わせなども取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園で散歩やスーパーでの買物のほか、ぶどう狩り、花見、外食なども行っている。利用者の希望や無理のない参加で、ホームに閉じこもらない生活を工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠しているが、日中は鍵をかけず、利用者の生活を抑制しないよう支援している。ドアに工夫があり、外からは入れないようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練、避難訓練は年2回行っている。緊急時のマニュアルもできている。利用者の力量に応じて、毎日運動を兼ね非難時に備えてホームの階段の昇降訓練をしている。	○	全職員が、定期的に救急救命講習を受け、体得できる仕組みを作られることを期待する。運営推進会議等を通して、消防署ばかりではなく、防災時の地域との連携体制も整えていくよう働きかけて行かれることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量、食事量のチェックをしている。1日のおおよその摂取カロリーも把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に囲まれた共用空間は、広く開放的で明るい。居室の戸を開けている利用者が多く、そこからも陽光が入ってくる。家庭的な調度品やソファがあり、利用者は共用空間で思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真や好きな絵などを飾って、その人らしい居室となっている。		

※  は、重点項目。